

アクション&レガシープラン 2016 中間報告

～東京2020大会に参画しよう。そして、未来につなげよう～



2016年3月

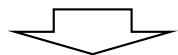
公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

全体概要

1. 基本的な考え方(アクション&レガシープラン)

▽『オリンピック・パラリンピックは参加することに意義がある』とあるように、
できるだけ多くの方々、自治体や団体に参画していただく【アクション】。

▽ 大会ビジョンで「スポーツには世界と未来を変える力がある」を掲げ、
その力で、東京2020大会をきっかけにポジティブな影響を残し、
聖火リレーのように、**次代を担う若者や子供たちに継承していく【レガシー】。**



▽『**アクション&レガシープラン**』は、一人でも多くの方が**参画【アクション】**し、
大会をきっかけにした成果を未来に**継承する【レガシー】**ためのプラン。

Tokyo 2020 Vision

スポーツには、世界と未来を変える力がある。
1964年の東京大会は日本を大きく変えた。2020年の東京大会は

「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」

「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」

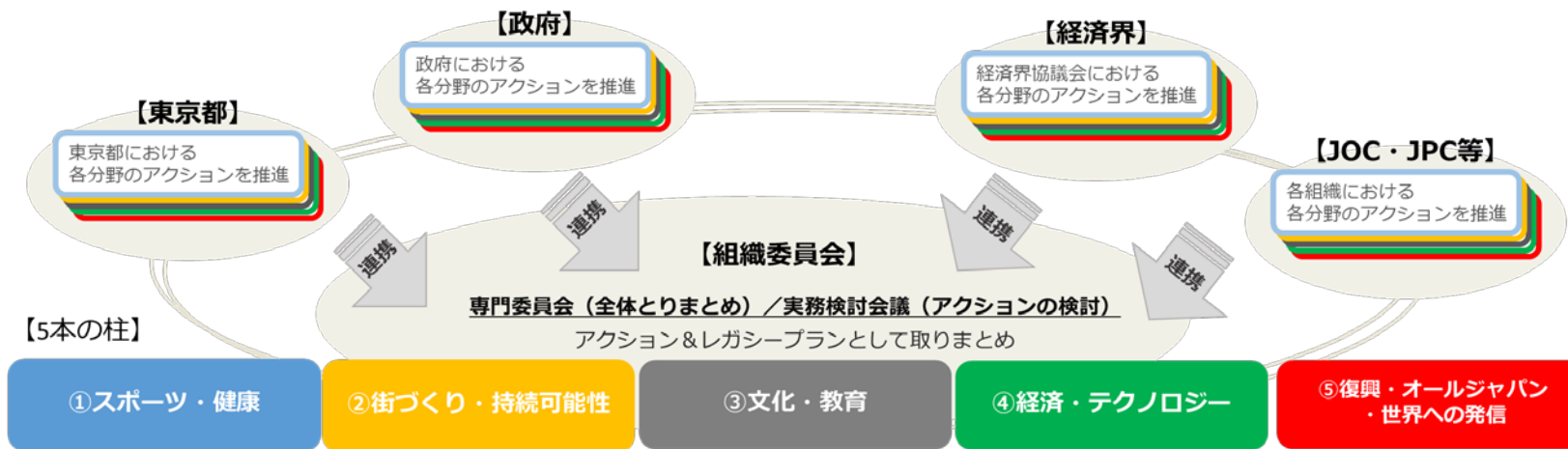
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」を

3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベーティブで
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

2. オールジャパンでの取組

▽ 東京都、政府、経済界、JOC・JPC等の関係団体と連携を図り、オールジャパン体制で検討し、今回、中間報告として取りまとめ。

▽ ①「スポーツ・健康」②「街づくり・持続可能性」③「文化・教育」④「経済・テクノロジー」⑤「復興・オールジャパン・世界への発信」の5本の柱で検討。⇒今後、「アクション&レガシープラン2016」を策定し、リオ大会前に公表予定。



全体概要

3. アクション&レガシープラン2016の策定に向けた重要な視点

(1)『参画』

- 多くの企画・イベントを全国で実施し、できるだけ多くの方々、自治体や団体に主体的に参画していただき、盛り上げを図る。
- 企画・イベント等の「認証」の仕組みをリオ大会前までに構築。

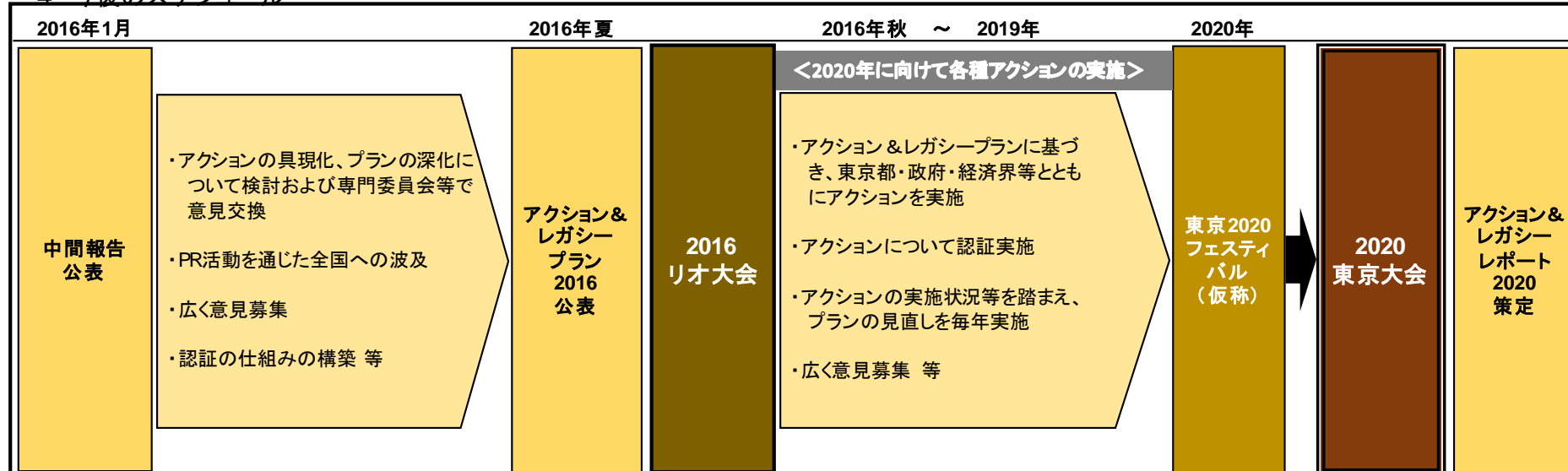
(2)『パラリンピック』

- 高齢化先進国に向けた課題解決や、共生社会の実現・確立に向けたきっかけとなりうる大会。
- 東京は世界で初めて、同一都市で2回目のパラリンピック大会が開催される都市。

(3)『2018～2022年の間の大規模大会との連携』

- オリンピック・パラリンピック大会(2018年 平昌(韓国)・2020年 東京(日本)・2022年 北京(中国))、日本でのラグビーワールドカップ大会(2019年)、ワールドマスターズゲームズ(2021年)といった世界的な大規模スポーツ大会との連携を図る。

4. 今後のスケジュール



文化・教育

<文化・教育委員会、宮田亮平委員長>

基本的な考え方

■文化・教育の各種取組を通じて、より多くの人々を東京2020大会に巻き込み、大会成功の機運を醸成

残すべきレガシー

文化		教育	
日本文化の再認識と 継承・発展	次世代育成と 新たな文化芸術の創造	オリンピック・パラリンピックや スポーツの価値の理解	多様性に関する理解 (障がい者への理解・ 国際理解)
日本文化の世界への 発信と国際交流	全国でのあらゆる人の 参加・交流と地域の活性化	主体的・積極的な参画と大学連携 (将来の国際社会や地域社会での活動に、 主体的、積極的に参加できる人材の育成)	

文化の祭典としてあらゆる人々が参加する東京2020大会文化プログラム(仮称)を展開
多様な教育メニュー全体をパッケージ化した教育プログラム(愛称:よい、ドン!)を展開

文化におけるアクション例	教育におけるアクション例
<ul style="list-style-type: none"> ■伝統芸能と最先端技術やポップカルチャーを融合させた新たな芸術表現の創造 ■小・中学校における伝統文化・伝統芸能鑑賞体験授業の充実 ■学生、若手クリエイターを対象として公募による新たな発想を取り入れたプログラムの展開 ■国内外のアーティストを受け入れるアーティスト・イン・レジデンス事業 ■アール・ブリュットの普及推進 ■文化芸術の力を活用して「街づくり」や「福祉」「教育」等の課題解決型事業の展開 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■オリンピック・パラリンピック教育を積極的に進めていく学校の指定 ■オリンピック・パラリンピアン・外国人アスリート等の学校への派遣 ■企業や団体等の提供する教育メニューの教育活動への活用 ■障がい者スポーツの観戦・体験等の機会の拡充や、特別支援学校の児童・生徒と小・中・高校生との交流を充実 ■1校1国運動のような学校単位での国際交流 ■大会運営ボランティアや大会に関連する活動への参画 ■大学連携の枠組みを通じた取組の推進 等

※アクションは組織委員会の専門委員会での意見や検討中の内容を含む